

最終的な基準（ガイドライン）のイメージ
基準のねらいを掲げて、細かい仕様は申請者にゆだねる。

	基準の考え方（第2回部会）	基準（ガイドライン）の最終イメージ
【1】 四季や 自然を 楽しむ	・室内から観賞できる庭を設ける ・しつらい空間を設ける ・置スペースを設ける ・自然エネルギーをコントロールする →通風、自然採光の確保 →軒、庇による日射遮蔽 →断熱・気密性能の確保	室内から観賞できる庭を設けること【必須】 ＜ココが京町家！＞ ・庭には緑を植えることで、四季の草花や鳥のさえずりを楽しめます。 ・お庭の空間を通じて、心地よい風の通り抜けを感じることができます。 ・隣地のお庭や緑とつながることで、・・・ ・まちなかでも自然を身近に感じ、四季の移り変わりを感ずることが出来ます！ 【ポイント、アドバイス】 ・季節感の創出など、細やかなアイデアを盛り込んでみましょう。 ・落葉樹を植えると、季節の変化が楽しめるとともに、夏の日射遮蔽・冬の日差しの取込みといった環境調整ができます。 ・メンテナンスのことも念頭におきながら計画しましょう。 □しつらい空間を設けること【必須】 ＜ココが京町家！＞ ・祭事や季節ごとに、床の間や飾り棚のお花や飾りを変えて楽しめます。 【ポイント、アドバイス】 ・床の間や達棚といった伝統的なしつらい空間に囚われず、柔軟なアイデアで設計してみましょう。 ・飾るものが引き立てられ、しつらえるアイデアが広がるよう仕掛けを考えてみよう。 □置スペースを設ける【必須】 ＜ココが京町家！＞ ・四季折々の祭事に利用できます。 ・座敷の生活様式により、ひとつの部屋を多様に利用できます。 ・繊細な職人技を生かした空間で、日本人の美意識が育まれます。 ・畳には断熱効果、調湿効果などもあります。 ・表面に弾力があり、足腰への負担が少なく、また、小さな子どもがいても安心して遊ばせることができます。 【ポイント、アドバイス】 ・伝統的な座式から、リビングの量コーナーまで、様々な取り入れ方があります。使い方や生活スタイルに合わせて設計しましょう。 □自然エネルギーをコントロールする【必須】 ＜ココが京町家！＞ ・風の通り道を確保し、自然採光を工夫することで、家電に頼りすぎない暮らし。光熱費の削減にもなります。 ・深い軒や庇が、夏場の日射をしっかりと遮ります。 ＜現代の知恵＞ ・屋根をしっかりと断熱すれば、夏場の暑さもマイナス●度！ 【ポイント、アドバイス】 ・風を取り込むための建物配置や開口部の位置、建具の配置等を配慮しながら設計しましょう。 ・夏の日射遮蔽だけでなく、冬の日射熱取得にも配慮しましょう。 ・開口部への日射を遮るには、軒・庇以外にも、紙障子、ブラインド、すだれ等を組み合わせると効果的です。 ・断熱は、結露が生じないよう、正しい方法で施工しましょう。